**慈悲行実践道場の理念と目的**

[１．なぜ慈悲行を実践しようとしますか 1](#_Toc447613838)

[２．慈悲の修集による利益 2](#_Toc447613839)

[３．どのように慈悲を修集しますか 3](#_Toc447613840)

[４．慈悲と三聚戒・報恩 4](#_Toc447613841)

[５．具体的な慈悲行 5](#_Toc447613842)

慈悲行実践道場は、仏教思想による慈悲精神を求め、慈悲行を

実践しようとする人の集まりです。

当法人の理念と目的は、仏教思想による慈悲精神を求め、以下

に掲げる仏教思想の教えに基づき、今日の社会問題の１つである高齢者をはじめとする、支援が必要とされる人々を対象とし、生活支援・施設提供などの活動を展開することによって、慈悲行を実践し、微力ながら当法人の活動を通じ、より多くの人々を常に自主的に利他的行動を取るように導くことである。

### １．なぜ慈悲行を実践しようとしますか

慈悲は仏教の核心思想の一つです。慈とは人に利益や安楽を与え、悲とは衆生から不利益と苦痛を除去することを意味します[[1]](#endnote-1)。慈悲行とは慈悲の理念を常に念頭しがら、行動することです。

『優婆塞戒経』では、「智者深く一切衆生の生死苦悩の大海に沈没せるを見て、抜済せんと欲するがため、これゆえに悲を生ず」と仏陀が説かれています。

（原文：智者深見一切衆生沈没生生死苦悩大海、為欲抜済、是故生悲。）

同じく『優婆塞戒経』では、「一切煩悩、是我大怨、何以故？因是煩悩、能破自他。以是因縁、我当修集慈悲之心、為欲利益諸衆生故、為得無量純善法故」というように、何故慈悲を修集すべきかを教えられています。

### ２．慈悲の修集による利益

この慈悲は，次のように沢山の利益をもたらすことができることも、『優婆塞戒経』では説かれています。

1. 能断不善；
2. 能令衆生離苦受楽；
3. 能壊欲界；
4. 如是慈心、即是一切安楽因縁。若能修慈、当知是人、能破一切驕慢因縁、能行施、戒、忍辱、精進、禅定、智慧、如法修行。
5. 若人修定、当知是人、修梵福徳、得梵身故、名梵福徳。若人能観生死過罪、涅槃功徳、是人足下所履糞土、応当頂戴。
6. 若修悲已、当知是人、能具戒、忍、進、定、智慧。若修悲心、難施能施、難忍能忍、難作能作。以是義故、一切善法、悲為根本。

　　「善男子、若人能修如是悲心、当知是人能壊悪業、如須弥山、不久当得**阿耨多羅三藐三菩提。是人所作少許可善業、所穫果報、如須弥山**。」

### ３．どのように慈悲を修集しますか

では、慈悲は如何に習得できるでしょうか？『優婆塞戒経』第27品では、詳しく教えられています。

1）「慈」の修集

\* 修慈之人、先従親起、欲令受楽、此観既成、次及怨家。

\*若能観怨、一**毫之善、不見其悪、当知是人、名為習慈。**

\*若彼怨家、設遇病苦、能往問訊、瞻療所患、給其所須、当知是人、能善修慈。

\*若能観怨作子想者、是名得慈。

**２）「悲」の修集**

一言で言えば、衆生の様々な苦痛や不自由不自在をよくよく観察し、それらを取り除いて上げようと発心・行動することによって修得します。

例えば

「又観衆生色力、寿命、安隠、辯才，不得自在、是故生悲。」

「又観衆生諸根不具、是故生悲。」  
「又観衆生、飢渇寒熱、不得自在、是故生悲。」

「又観衆生、為煩悩火之所焼燃、而不能求三昧定水、是故生悲。」

。。。。。。

『優婆塞戒経』の「悲品第三」では、如何に「悲」の心を引き起こし、悲業を修集するかについて、詳細に説かれています。

### **４．慈悲と三聚戒・報恩**

慈悲は、菩薩が守らなければならない菩薩三聚戒の核心的な内容です。菩薩のシンボルの一つとして、菩薩三聚戒を受持することです。三聚戒の一つは[摂衆生戒](https://kotobank.jp/word/%E6%91%82%E8%A1%86%E7%94%9F%E6%88%92-79321)であり、一切の衆生を愛護し，利益を与えようとしなけばならないのです。

慈悲はまた、仏教の報恩理念の重要内容でもあります。仏教では、人の人たる道は恩を知り、恩に報いるべきという知恩・報恩の考えがあります。『正法念処経』には、母の恩・父の恩・如来の恩・説法法師の恩の四恩が説かれ、『大乘本生心地觀經』では、父母の恩・衆生（社会）の恩・国王（国家）の恩・三宝（仏・法・僧）の恩の四恩を説いています。弘法大師は、「恵眼をもって観ずれば、一切衆生は皆これ、わが親なり」と説き、道元禅師は「一切衆生斉しく父母の、恩のごとく深しと思うて、作す所の善根を、法界にめぐらす。」と仰せられました。  
　人々を楽しませたり、お世話をしてあげたりすることなど、利他的な慈悲行為こそは、この重い四恩に返報することとなります。

### ５．具体的な慈悲行

我々は以上の仏教理念を受け入れ、且つそれに基づいて行動し、慈悲行を実践しようとしております。

少子高齢化が深刻化していく中、人々の老後生活を支えるには、社会保障制度などの公的支援のほかに市民の自主的な支援活動が大いに必要とされています。このような認識は官庁をはじめとする社会共通の意識になりつつあります。

松戸市では「高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるようにするためには、公的サービスの充実だけでは達成できません。市民の皆さまが互いに支え合う意識づくり、地域づくり、そして、サービスの仕組みづくりを推進してまいります。」というように、市の施政方針の一つとして取り上げられています。

（<http://www.city.matsudo.chiba.jp/shisei/keikaku-kousou/siseihousin/H28shiseihoushin.html>。2016年4月5日アクセス）

この現状を鑑みて当法人は、高齢者への生活支援・施設提供などを具体的な慈悲行として、活動を始めようと計画しております。

条件が整えたら、出来る限り高齢者のニーズに応えるように、より多くの施設を提供します。こうした努力を通じて我々の慈悲行を絶えずに改善し、修行を極めていこうとしております。

微力ながら、私達の活動を通じ、より多くの人々を常に自主的に利他的行動を取るように導くことができれば、幸甚です。

1. 1. 『大智度論』巻20「慈名愛念衆生、常求安穏楽事以饒益之。悲名

   愍念衆生、受五道中種種身苦心苦」

   1. 『大智度論』巻27：「大慈与一切衆生楽、大悲抜一切衆生苦。大慈以喜楽因縁与衆生、大悲以離苦因縁与衆生。」
   2. 世親『十地経論』巻2：「慈者同与喜楽因果故、悲者同抜憂苦因果故。」

   [↑](#endnote-ref-1)